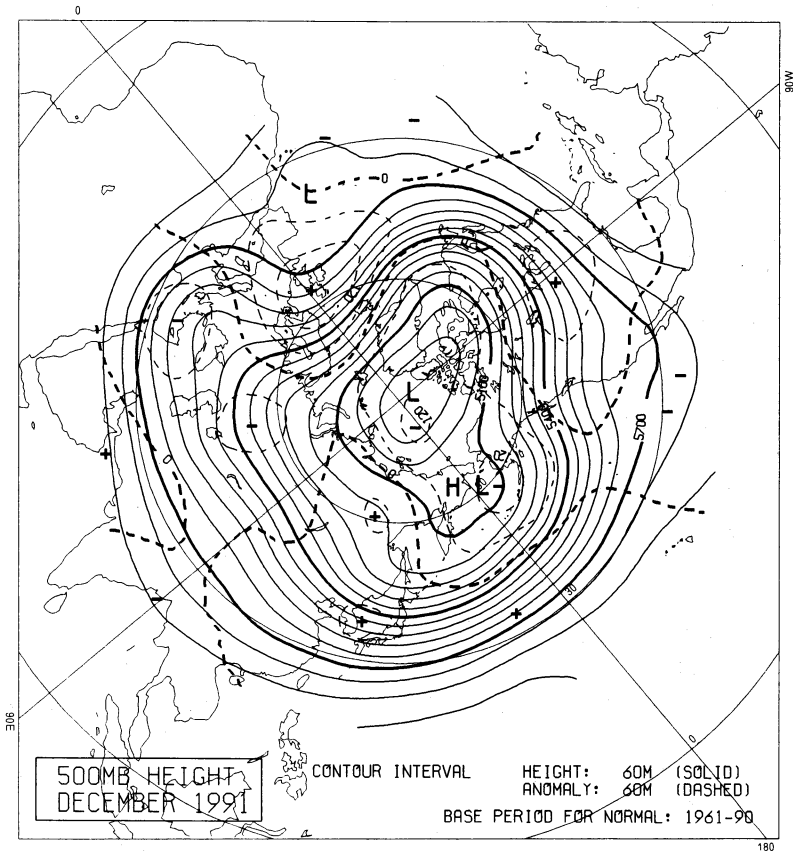


## 1991年12月の大気大循環と世界の天候 月平均500mb天気図.



(破線は平年からの偏差。単位m)

表1 1991年 12月の気候表

地点名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	3.2	-1.1	-0.6	52	103	—	カサブランカ	—	—	—	13	12	1
ベルリン	1.9	0.4	0.2	43	88	4	ニオロドサヘル	—	—	—	—	—	—
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	21.3	0.0	0.0	118	106	3
イスタンブール	—	—	—	—	—	—	バンクーバー	5.6	1.7	1.1	96	53	1
モスクワ	-4.0	2.0	0.6	39	84	—	ニューオリンズ	14.2	1.4	0.7	67	50	2
オデッサ	-0.9	-2.3	-1.2	26	62	3	セントルイス	4.0	2.7	1.2	53	94	4
ニューデリー	15.7	0.0	0.0	33	440	5	サンフランシスコ	10.4	0.8	0.6	69	77	1
カルカッタ	20.3	-0.3	-0.4	37	500	6	ニューヨーク	4.6	2.3	1.1	89	100	1
ボンベイ	25.5	-0.7	-1.0	1	32	5	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	18.4	0.8	0.6	12	47	4	リオデジャネイロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	-12.0	0.7	0.3	4	91	4	ロサリオ	—	—	—	—	—	—
ベキン	-1.8	0.6	0.3	5	192	5	ホノルル	24.6	1.4	2.3	31	35	2
シャンハイ	7.4	—	—	45	—	4	タヒチ	26.9	0.4	0.8	489	180	5
バンコク	—	—	—	—	—	—	ダーウィン	30.1	1.1	1.8	19	8	0
マニラ	—	—	—	—	—	—	キャンベラ	17.7	-0.6	-0.5	56	100	4

## 世界の天候

500 mb 天気図では、極渦中心はほぼ平年並の位置で発達し高緯度は負偏差域となった。中緯度では正偏差が卓越し、特に西ヨーロッパでは月前半と月末にブロッキング高気圧が発達したため顕著な正偏差となった。ウラル付近から地中海東部では負偏差が持続し、中国大陸付近は正偏差、ベーリング海から北東太平洋は負偏差、北米大陸に正偏差が広がった。北半球的には寒気の蓄積期であり、高度偏差分布も典型的な日本付近暖冬パターンであった。

### ① シベリア中南部・中国北西部の多雪

平年は季節的に降水のない中国北西部で雪を観測し、チチハルでは平年の2.9倍(10mm)の降水があった。モンゴルでも大雪のニュースが伝えられるなど、シベリア中南部から中国北西部で大雪となった。

### ② ヨーロッパ西部の少雨(雪)

月前半と月末に、イギリスを中心にブロッキング高気圧が発達、イギリス、フランス南部、スペイン北部では著しい少雨となった。一方、ロシア南部から東欧には寒

気が入り低温であった。

### ③ 地中海沿岸東部・中東の低温

地中海沿岸東部から中東にかけては度々寒波に襲われ低温多雨となった。エジプト、イスラエルでは洪水が発生し、イラン、キプロスでも大雨と報じられている。エルサレムでは、月平均気温の平年差 $-3.6^{\circ}\text{C}$ ( $6.9^{\circ}\text{C}$ )、月降水量は平年の4倍(418mm)であった。

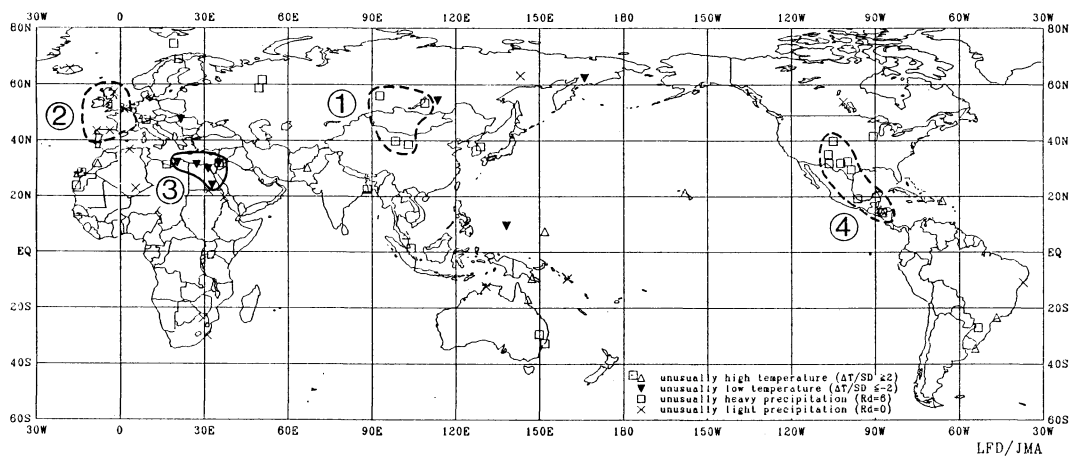
### ④ アメリカ合衆国南部・メキシコの多雨

アメリカ合衆国からメキシコにかけて大雨となり、特に合衆国テキサス州では大雨で15人以上が死亡、大きな被害となった。サンアントニオでは、平年の9.2倍(355mm)の月降水量があった。

### ⑤ その他

熱帯太平洋域では、エルニーニョの冬に特徴的な天候パターンが現れた。西部熱帯太平洋ではオーストラリア北部からメラネシア、ミクロネシアで少雨傾向、日付変更線より東では、ポリネシア東部で多雨傾向となった。

(気象庁長期予報課 川真田 正宏)



1991年12月の世界の異常天候分布図

△: 高温 ▼: 低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□: 多雨 ×: 少雨

1991年12月の気候表の説明。平均値は1951~1980年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 mb 高度場の平均値は1961~1990年の30年平均値。